

32. 作業サークルを通して患者に 及ぼす影響と地域社会とのかかわり — 七宝焼を中心にして —

国立療養所川棚病院

永田 智由子 谷村 富子
琴岡 静香 中野 俊彦
井上 幸平

〔研究目的〕

サークルを通して楽しみ、生きがいを見出し、より積極的な姿勢で生活できるようにするとともに、地域社会との接触により生活範囲の拡大をはかる。

〔サークルの経過〕

過去2年程、無線七宝を行っていたが、より商品価値が高い、新しい技術が得られるなどの点から、52年8月より講師に依頼して、「銀線七宝」の講習会を始めた。

講習会は週1回3時間で、場所は病棟食堂で行う。サークルの構成員は、成人患者11名で内男7名、女4名（障害度別では、3度3名、5度2名、6度4名、7度2名）

講習会を開く上での問題点は、経費がかかることと、重度の患者の技術習得の困難性の2点が考えられた。

必要経費としては、講師料が1回1万円で月4～5万円の他、銀線等の材料費が10万円程度でサークルの手持ち資金は5万円、他に筋ジス協会からの補助金が10万円あった。材料費14万円は病院に負担してもらった。サークル員の個人負担は1回の受講につき500円とした。

技術的な問題には、巾1.2ミリの銀線を専用ピンセットで折るという銀線折りがあったがピンセットを工夫する等して、全部の構成員が作品を作れる様になった。

ここで銀線七宝の製作工程を簡単に説明すると次のようになる。

1. 素材（銅板）を苛性ソーダ液に浸して脱脂をする。
2. 裏引を施釉して焼成をする。
3. 下引を施釉して焼成をする。
4. 銀箔を張り、施釉をして焼成をする。
5. ピンセットで銀線を折り、図柄を作製する。
6. 折った銀線を（4.）にのせ焼成をする。
7. 施釉と焼成を繰返し行い、仕上げる。

〔サークルの受けとめ方〕

(構成員へのアンケート調査による)

参加の動機としては、「関心、興味がある、収入になる等」積極的な取組みをした人が5人で残りは「暇がある、なんとなく等」消極的な姿勢だった。

現在の気持ちとしては、「銀線七宝を自分のものとして取得しているという自信を持った。作る楽しみができた。動きにくい手でもまだ作れるという喜びが湧いた等」ほとんどの人が積極的な姿勢を見せている。

今後の希望としては、「材料購入費の保障、作業場の確保、販売ルートの確立、作品展に出品する機会が欲しい等」があがっていた。

〔ま と め〕

1. ほとんどの患者が参加することに意義を見い出している。
2. 全員に継続の意志がある。
3. 商品価値のある作品が作れる。
4. 将来、売り上げ金で運営できる。
5. バザー等の販売を通じ、地域社会との接触ができる。

以上のことから、今後も継続して作業サークルを発展させて行きたい。

33、心理検査から見たカウンセリング における心理的变化 (ケース・レコード)

国立療養所川棚病院

中野俊彦	井上幸平
永田智由子	琴岡静香
谷村富子	

〔研究目的〕

この研究の目的は、カウンセリングを実施して、(1)病気の進行に伴う不安の軽減、及び情緒の安定と、(2)心理検査によるカウンセリング前後の心理的变化の検討であった。

症例1.、A男、20才、IQ87、障害段階7度。50年4月より51年12月までに20回の面接、その後数回のフォローアップ、インタビューを続けた。A男のY-Gは(表I)に示す通り、実施前

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

〔研究目的〕

サークルを通して楽しみ、生きがいを見出し、より積極的な姿勢で生活できるようにするとともに、地域社会との接触により生活範囲の拡大をはかる。